



ターン
飯沼さんファミリー

薪ストーブのある暮らしも、1ターン移住を選択した理由の一つだった。

飯沼さんファミリーは平成22年に名古屋市内からの1ターンで豊松町に住み始めた。物件を紹介されて見に来たとき、近所のお婆さんが「ここに住んでくれたら私が面倒みてあげるからね」と声を掛けてくれ、そのあたたかい言葉で決断した。

ご主人の貴さんは大分県日田市出身。18歳のとき就職で豊田市へ来た。工場が動き続けてオン・オフの無いまちが嫌で名古屋から通勤するようになり、大好きな大須のまちで「大須大道町人祭」のボランティアも務めた。スタッフ約100人のまとめ役も任せられ、そのころ妻の絵美さんと出会ったそうだ。

転職、結婚、子どもの誕生、豊松町への移住と20代後半で生活が大きく変わり、32歳のとき一大決心して農業の道へ。実家が兼業農家だったので農業には親しみもあった。

上郷地区の大手農家で米・麦・大豆を中心に農業全般を学び、8年間勤めて令和2年に独立。上郷地区で高齢農家の田んぼを

任されている他、地元でも新たに発足した集落営農組合に携わりながら米作りをしている。

地域の活動にも積極的だ。地元を離れていく若者がいざ戻りたくなくなるようにと、仲間と一緒に「豊松お野人会」を発足。豊かな自然のなかで子どもたちにアウトドア遊びを教えて郷土愛を育んでいる。また、松平地域会議の委員にも選ばれ、都市住民が「松平に住みたい!」と思って貰えるよう、移住定住の先進地にも学びながら取り組んでいる。

貴さんは「松平は人の心があたたかくて外から移り住みやすい地域ですが、外へ発信する力が弱いと思います。そこを僕たちが担いたいな」と話してくれた。絵美さんも地域の魅力アップのため、コミュニティスペースの様な場を開けたらと考えている。子どもたちがおこづかいを持って集まれるような、また、畑で余った野菜やお手製の工芸品なども置いてあるような、そんな場が夢だ。

